

能代第一中の先生に聞く！（第4回）

授業改革推進チームの研修として、オンラインで秋田県の先生方と交流し、実際の取組を学んでいます。今号では、能代市立能代第一中学校の先生に参加していただいた第4回（最終回）の概要を紹介し、能代第一中学校は、昨年度からの3年間、秋田県教育委員会の「ICTを活用した授業改善支援事業」の研究指定校に指定されています。

第4回テーマ：「能代第一中学校での授業におけるICTの活用」

ゲスト： 佐藤 整 教諭（研究主任：国語科）

相沢 晶子 教諭（教育専門監：社会科）



1年目の研究（昨年度）

タブレットを使って授業をする先生がほとんどいない0からのスタートだった。そのため、まず授業の中でタブレットを使うところから始めた。

- (1) タブレット活用予定表を毎週作成して職員室に掲示し、空き時間を利用して相互に授業を見合い、授業後に活用の仕方について意見交換し合うようにした。
- (2) 長くて10分以内でICTの活用場面を中心に撮影した授業動画を蓄積し、他の職員の実践に学び、自身の授業の振り返りにも活用するようにした。昨年度の1年間で、70本程度の動画が蓄積できた。
- (3) 授業研究会や指導案検討会は、秋田の探究型授業検討チームとICT活用検討チームに分かれ、1つの授業や指導案を両チームの視点から検討するようにした。会の度にチームを入れ替え、1年間を通して探究型授業とICT活用の2つの視点からバランスよく検討できるように工夫した。

2年目の研究（今年度）

「まず使う」から「何のためにどう使うか」にシフトし、生徒の「自立した学び」の実現に向け、それを支えるツールとしてICT活用を整理し、研究を進めていった。【①問題発見のツール、②個別最適な学びのツール、③協働的な学びのツール。】ICTの活用効果や有効性を評価するために、心理統計分析の手法を用いている。客観的なデータを指標としながら今後の研究を進めていきたい。

研修に参加した先生方からの質問

Q：2つのチームに分かれ、さらにチームを入れ替えて授業や指導案を検討することの成果は？



話合いが深まれば、どちらの検討チームも最後は同じところにたどり着く。しかし、違うチームに入らないと見えない部分があったのは発見だった。

Q：授業研究会などで、中学校でよく言われる「教科の壁」をどう乗り越えていますか？



教科担当が一人の学校での勤務がほとんどだったので、他教科の先生にアドバイスを求めることが多かった。他教科の授業を参観し、自分の教科に生かせることはないかと考えながら質問することで、得ることが大きかった。普段からの人間関係づくりを大切にすることで、他教科の指導案検討もしやすくなると考えている。

教科のスペシャリストとしてのプライドがあり、自分の指導案に他教科の先生からあれこれ言われるのはいやだなという本音はあると思う。しかし以前、先輩の先生から「他教科の先生に納得してもらえないような指導案は、生徒にとっても分かりにくい授業になる。」とされたことがあり、今でもその言葉は印象に残っている。教科や年齢など関係なく、学び合うことで、自分にとってプラスになることが見えてくると思う。

～難波指導教諭のつぶやき～

能代第一中学校の授業研究協議会に参加してきました。精選されたICT活用はもちろんのこと、全職員が一丸となって研究を進めていく姿に感銘を受けました。また、ICTを活用することで、生徒の考えがより磨かれていく様子を目の当たりにし、自身のICTの活用の仕方について振り返る機会となりました。今後は、「何のために」をより意識していきたいです。

